【活動報告】

令和６年度「能登半島地震 被災地支援」

実施回数	5回：①6/9 . ②7/21 . ③ 8/18 . ④10/13 . ⑤11/10
開催場所	①：輪島市マリンタウン仮設住宅　②③④⑤：輪島キリコ会館駐車場
延べ人数	770人
支援内容	ハンドマッサージ(傾聴・相談)、血圧測定(体調チェック･相談)、生理用品等提供(悩み相談)、熱中症予防対策案内、無料カフェコーナー、炊き出し、お菓子、カイロ等を提供。

＜被災地支援参加スタッフより＞

現地を訪れるたびに復旧の進展を目にする一方で、手つかずの家屋や建物、地割れや激しい隆起が残る道路、さらには土砂崩れ対策で積み上げられた土嚢など、現地に足を運ばなければわからない状況が広がっていました。

令和6年6月9日（日）は、「必要な支援の把握」を目的として現地入りしました。しかし、被災支援の経験が初めてだったこと、地域住民とは初対面だったことから、まずはコミュニケーションを取り、私たちの存在を知っていただくことに専念しました。その後、支援を継続することで、顔なじみの方が増え、対話を通じて、被災者が求める支援の具体的な情報を少しずつ得ることができるようになりました。この情報をもとに、次回の支援活動に反映させる取り組みを続けていきました。また、被災後の時間の経過や季節の変化によって、必要とされる支援内容が移り変わることを実感しました。

地震から半年が経過し、再建に向けて奮闘する被災者の声が聞かれるようになった矢先の令和6年9月、記録的な豪雨災害が発生しました。この豪雨により、それまで進められていた復旧作業が河川の氾濫で大きく後退し、生活圏には流木や土砂が押し寄せました。被災者の日常を妨げるだけでなく、さらなる二重災害という深刻な状況を生み出しました。令和6年10月13日（日）、支援場所に向かう途中でも豪雨災害の影響で景色が一変している様子を目の当たりにし、言葉を失いそうになりました。それでも支援場所に到着すると、多くの地域住民の方々がすでに待機されており、「待っていたよ」と声をかけてくださる方もいらっしゃいました。この日も物資提供やハンドマッサージを行いながら、被災者の声に耳を傾けました。「家族や家を失い、もう生きる希望がない」「もっと大変な人がいるので申し訳ない」といった声を聞きました。どんな声も大切に受け止めたいと感じました。引き続き、被災者が必要とする物資の聞き取りを行い、可能な範囲で準備を整えながら支援を続けていきます。大規模な支援は難しいかもしれませんが、細く長く継続することが大切だと考えています。

【ジェンダー課題】

被災地は高齢者が多く、固定した性別役割分業が根強い地域です。そのような地域で被災し避難を余儀なくされた状況ではジェンダー課題はいっそう濃くなると感じています。特に女性は固定的性別役割分業意識から、家族や家庭内にとどまらず、周囲へのケア役割等を担うことを求められていると考えます。

被災から1年を経た今、ジェンダー課題がどのように存在してるいるのか課題の発見に努め、必要な支援を考え提供していきたいです。